
蒼穹

朔

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蒼穹

【Nコード】

N1926C

【作者名】

朔

【あらすじ】

君は僕の光だった。だからもう一度君に光が宿るように君にあげるね。「そつと目を開けて。ほら、君に似た蒼い蒼い空が君の目に映った」

（前書き）

‘君’を兄弟のように、心友のように慕っている‘僕’。
君にしてあげられる事は何だろう

――これでやっと最期になるだろう

この途方もない戦いが

これだけの犠牲の上に一体何があるのだろうか

誰も気付かないのだろうか

本当にすべき事は、こんなことじゃないのに

僕は父に教えられたように生きてきた

僕には光がなかったから

父に従う事が運命だと信じてきた

僕はこの人生に迷いがなかった

そんな僕に迷いを齎したのは君だった

君といった事で僕は変わった

僕は君に何をしてあげられるだろう

何度も何度も考えてるのに何も浮かんでこないんだ

君は僕の知らないことをたくさん知ってる

君と暮らして僕の世界は広がったんだ

君の白い綺麗な心が僕の黒い心を包んでくれた

君という僕は僕になったんだ

この世界をこの人生を意味のないものだと思っていた

いつも僕の周りには高い高い壁があった

だから皆が僕に向ける笑顔は全部仮面だ

君だけが

君だけが僕と向かい合ってくれた

こんなに役立たずの僕を君は必要だと言ってくれた

例えば戦いが起きても僕は何も出来ない

僕は弱虫で本当の戦いからは逃げてしまふ傷ついた人に薬を塗ることも

戦わない僕の言葉には何も意味を持たない

誰も耳を傾けない

君は勇敢だから皆のリーダーで僕のヒーロー

僕を笑わせてくれるのはいつも君

僕を叱ってくれるのもいつも君

本当の家族みたいで本当の兄弟みたいで心友みたいで

そうになりたいといつも願ってた

君の目はいつも輝いてるんだ

いつも優しく微笑んでくれる君

そんな君だから彼女が君を好きになるのがよくわかるんだ

知ってる？戦いの時いつも彼女はお祈りしてるんだ

君が無事で帰ってくるように

君の側にいられるように

もつと君と話したい

もつと君の世界を見たい

もつと君といたい

このちっぽけで大きい僕の望みは叶うだろうか

最後の戦い

君は強いからきつと勝利するだろう

城は破られてもまた新しく建てればいい

君が負傷して帰ってきて僕は冷たくなった

君の透いた目を敵に傷つけられたと聞いて彼女は涙を流してる

僕じゃ役不足だから、君の無事を知らせてあげて

僕は君に感謝してる

僕は君と会って生きた

君と一緒にだった7年が僕の一生

僕は君に何をしてあげられるだろう

君の傷ついた目

僕は何度でも君の輝いていた目を思い出せる
失いたくない

だから

僕の方も君が見続けられるように

君が僕に見せてくれた世界がもっと広がるように

君と同じものをみたいから

君みたいに綺麗じゃないけど

僕が君にあげられるもの

そつと目を開けて

君に似た蒼い蒼い空が君の目に映った

僕も一緒に君と見るんだ

君の未来を。

（後書き）

読んでいただきありがとうございました。
感想など一言でもいただければ幸いです。

もしかしたらBL？と感じる方もいるかもしれませんが、私個人的
にはBLのつもりはありません。

【大切な人】という枠の中の気持ちです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1926c/>

蒼穹

2010年12月7日15時14分発行